

一般質問

市民の声を代表して 20人が質問

議員は、市長などに対して、市の仕事の状況や将来の方針などを質問することができます。これを「市政に関する一般質問」と呼んでいます。

今回の定例会では、20人の議員が市民の皆さんを代表して一般質問をしました。どのような質問と答弁のやり取りがあったのか、ご紹介していきます。

原発危機下にやるべきこと

平 由子 議員

問 500ガルの揺れで配管破損した福島事故。2003年以後、宮城地震、中越地震、中越沖地震、岩手・宮城内陸地震が、軒並み4倍の2000ガル以上。『原発利権』は日本にとって、亡国の麻薬である。次の巨大地震までどれだけ時間が残されているか。東海2号炉は日本最大規模巨大原発。核分裂生成物量は99年のJCO事故のざっと10億倍。いかにして市民の生命を守るか。生命と健康に半永久的甚大な影響、それが表面化するまで長い時間を要するものもある。内部被曝を知るため早期発見早期治療の機器の整備を。

市長 東日本大震災災級の新たな地震のリスクがある中で、原発のリスクは計り知れないという点は全く同感。市では、住民の健康調査をするために、ホールボディカウンターを買う要望を茨城県に出している。まちづくり振興部長 子どもも環境をまず優先的に考え、除染をしていく方向で作業を進めている。

※質問部分は、議員本人が編集しました。

どう進める？放射線対策

染谷 和博 議員

問 市の放射線除去計画は、今後2年かけて市全域の空間線量毎時0・23マイクログシーベルトを目指すとなっている。今後の除染方法は。

まちづくり振興部長 一定のエリアで放射線量が高い所の除染をする準備を進めている。

問 個人の家、畑、林はどう考えているか。

答 公共的な施設で、子どもが日常的に接する場所の除染を優先的に進める。個人の住宅、私有地の取り扱いは、まだ決まっていない。

問 放射線マップはどの程度詳細な物を考えているか。

答 どの程度のピッチでやればいいのか検証ができれば、目安を独自につくって、検査をしていく予定。

問 総合的な放射線相談コーナーの設置についての考えはあるか。

答 健康に関する相談は保健センターでも受けている。放射線対策係は総合的な窓口の機能を持っている。対応を考えたい。

問 市民から、通り一遍の返答で分らなかったとおしかりを受けた。もう少し親身に相談に答えてほしい。

取手駅周辺の整備

結城 繁 議員

問 駅周辺を歩いていると、いろいろな所が目につく。今、駅の周辺は都市計画道路が回り込んだりしているが、看板(案内図)は昔のまま。直す気はないか。

都市整備部長 気が付かなかった。早急に確認したい。

問 再開発ビルと取手市所有のエレベーター建屋は元々同じデザインだが、再開発ビルがきれいに色を塗り直しているのに対し、エレベーター建屋はどす黒くなっている。放置していることをどう考えているのか。

建設部長 今後ウエルネス・タウン構想にマッチするように検討していきたい。

問 ギャラリーロード西口側入口の「東西自由通路」と書いてある所が壊れていて夜は電気もつかない。対処してもらいたい。

11月7日放送「ちい散歩」でも取り上げられた東口のストリートアートステージは今何も展示していないが、これはいつからか。

政策推進部長 9月26日から。新しい作品を製作中。

問 放送を見て取手に来る人が何もないとがっかりする。何らかの看板を出すなどをお願いしたい。

脳脊髄液減少症

阿部 洋子 議員

問 脳脊髄液減少症は、頭部や全身を強打することで脊髄液が漏れ、頭痛や倦怠感等の症状を引き起こす疾病。稲小中学校での高鉄棒落下事故後に、改めて子どもへの脳脊髄液減少症の冊子導入を提案し、小中学校に配付された。配付後の反応は。

教育長 養護教諭から話を聞いて、ほかの教諭が初めてこの症状を知ったということがあった。まだ周知を図らなければいけない現状。

問 教育関係者への講演会開催の声がある。考えは。

答 この冊子を活用して、学校で教職員の情報共有を図っていくように指導したい。市の主体的な実施は、もう少し考える必要がある。

問 広く市民に対しての講演会開催について伺う。

健康福祉部長 医師会との連携が基本。まず、医師会との情報交換から入りたい。

問 ホームページ上での掲載について伺う。

答 市のホームページに、県ホームページへのリンクを張って紹介することも視野に入れていきたい。

教育長 学校だより、保健だよりで保護者への情報提供を考えていきたい。